

目 次

令和 7年 3月 11日 (火曜日) 第2号

| | | |
|---------------------------------|----------------|-----|
| ○招集年月日 | ----- | 1 頁 |
| ○招集の場所 | ----- | 1 頁 |
| ○開 議 日 時 | ----- | 1 頁 |
| ○応 招 議 員 | ----- | 1 頁 |
| ○不応招議員 | ----- | 1 頁 |
| ○出 席 議 員 | ----- | 1 頁 |
| ○欠 席 議 員 | ----- | 1 頁 |
| ○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名 | ----- | 1 頁 |
| ○本会議に職務のため出席した者の職氏名 | ----- | 1 頁 |
| ○議 事 日 程 | ----- | 2 頁 |
| ○開 議 宣 告 | ----- | 3 頁 |
| ○一 般 質 問 | 辻紀樹議員 ----- | 3 頁 |
| | ・ヒグマ対策について | |
| | 高森議員 ----- | 6 頁 |
| | ・奨学金返還支援制度について | |
| | ・駅前の商業施設誘致について | |
| ○休会の決定 | ----- | 10頁 |
| ○散 会 宣 告 | ----- | 11頁 |

令和7年第1回長万部町議会定例会（第2日目）

◎招集年月日 令和7年3月11日（火）

◎招集の場所 長万部町役場 議場

◎開議日時 令和7年3月11日（火） 午前10時00分

◎応招議員（9名）

| | | | | | |
|---------------|--------------|---------------|-----|----|-----|
| 1番 | 辻 | 義雄 | 6番 | 高森 | 功治 |
| 2番 | 橋本 | 收司 | 7番 | 長崎 | 厚 |
| 3番 | 辻 | 紀樹 | 8番 | 高橋 | 克英 |
| 4番 | 大谷 | 敏弥 | 9番 | 村川 | 毅 |
| 5番 | 北川 | 佳嗣 | 10番 | 柏倉 | 恵里子 |

◎不応招議員（1名） 1番 辻 義雄

◎出席議員 応招議員と同じ

◎欠席議員 不応招議員と同じ

◎地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

| | | | |
|------------|--------|-------------|-------|
| 町 長 | 木幡 正志 | 出納室 長 | 工藤 貴司 |
| 副町 長 | 佐藤 英代 | 消 防 長 | 沼田 明宏 |
| 総務課 長 | 佐藤 久 | 病院事務 長 | 本前 武広 |
| まちづくり推進課 長 | 小山内 敏洋 | 病院事業推進室 長 | 加藤 典明 |
| 新幹線推進課 長 | 岸上 尚生 | 教 育 長 | 近藤 英隆 |
| 税 務 課 長 | 田中 浩 | 学 校 教 育 課 長 | 神野 隆之 |
| 町民課 長 | 田野 憲哉 | 社 会 教 育 課 長 | 米代 剛 |
| 保健福祉課 長 | 岡部 忠 | 選挙管理委員会書記 長 | 佐藤 久 |
| 産業振興課 長 | 小川 洋 | 監 査 事 務 局 長 | 増田 理恵 |
| 建設課 長 | 上野 訓 | 農業委員会事務局 長 | 小川 洋 |
| 水道ガス課 長 | 中里 博也 | | |

◎本会議に職務のため出席した者の職氏名

| | |
|---------|-------|
| 議会事務局 長 | 増田 理恵 |
| 事務局 主幹 | 佐々木 学 |
| 議 事 係 | 川村 界斗 |

◎議事日程

日程第1

一般質問

◎開議宣告

10時00分 開会

○議長（柏倉恵里子） ただいまの出席議員は9名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

なお、欠席届が辻義雄議員よりありました。

本日3月11日は、東日本大震災が発生して14年目を迎える日となります。この震災により犠牲となられた全ての方々に対し、ご冥福をお祈りし哀悼の意を表するため、これより黙祷を捧げたいと思います。

皆様ご起立をお願いいたします。

黙祷。

〔一同起立、黙祷〕

黙祷を終わります。ご着席ください。

〔一同着席〕

本日の議事日程はあらかじめお手元に配付したとおりであります。

◎一般質問

○議長（柏倉恵里子） 日程第1、一般質問を行います。質問通告書は事前に配付しておりますが、質問者は2名、質問件数は3件となっております。

この際申し上げます。一般質問の質問時間は各議員40分以内と決定しております。質問時間の終了3分前と、終了時にブザーを鳴らしますのであらかじめご承知おきください。

それでは順次質問を許します。

辻紀樹議員。

〔議員（3番 辻紀樹）登壇〕

○議員（3番 辻紀樹） 私は、ヒグマ対策についての1件を質問いたします。

北海道のヒグマの推定生息数は、平成2年から令和4年までの32年間で2.3倍の1万2,000頭となり、生息域も拡大を続け、人里への出没回数も大幅に増え、今後、さらに増加すると考えられています。

本町でも、昨年苗畑地区でヒグマが確認され、今後人里への出没について適正な対応が必要ではないでしょうか。

このことを踏まえ、下記について質問いたします。

- 1、北海道猟友会八雲支部長万部分会と、ヒグマ出没対策について協議されているか。
- 2、過去5年間の捕獲数は何頭か。
- 3、過去の出没地域はデータ化されているか。また、出没地域は何箇所あるか。
- 4、長万部町・八雲警察署・猟友会長万部部会の三者による協議会はあるのか。
- 5、緊急事態において、他管内猟友会の即時支援は可能か。

以上についてご質問いたします。

〔議員（3番 辻紀樹）自席へ〕

○議長（柏倉恵里子） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） ヒグマ対策についてご回答を申し上げます。

1点目の「北海道猟友会八雲支部長万部分会とヒグマ出没対策について協議されているか」との質問ですが、当町には「長万部町鳥獣被害防止対策協議会」があり、猟友会、NPO法人長万部町緑と樹を愛する会、新函館農協長万部支店、町の4団体で構成しており、この協議会を通じてヒグマ出没時の対応を協議しております。

2点目の「過去5年間のヒグマの捕獲頭数」の質問であります、令和2年から令和6年までの捕獲実績は0頭であります。

3点目の「過去の出没地域はデータベース化されているか」との質問ですが、目撃情報が寄せられるたびに、北海道ひぐまっぷに登録しております。今後は、他の市・町と足並みを揃えるため、町のホームページでも目撃情報が確認できるよう対応する予定であります。

また、「出没地区は何箇所あるか」との質問ですが、過去5年間で目撃情報は63件で、町内の豊野・中ノ沢・長万部・旭浜を除く全ての地域で目撃されており、特に、豊津・栗岡・知来・富野においては、毎年目撃情報が寄せられております。

4点目の「長万部町・八雲警察署・猟友会の三者による協議会はあるのか」との質問ですが、三者による協議会は現時点ではありません。

5点目の「緊急事態について、他管内猟友会の即時支援は可能か」との質問ですが、町内・町外を問わずハンターが捕獲を行う場合、鳥獣保護管理法に基づき、捕獲を行うエリアの「捕獲許可証」が必要となります。そのため、他管内猟友会の支援そのものを受けることは可能ですが、許可証の交付までに一定時間を要しますことから、緊急事態の対応は難しいと言えます。したがって、緊急時であればこそ地元猟友会の理解と協力が不可欠と考えているところであります。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（柏倉恵里子） 辻紀樹議員。

○議員（3番 辻紀樹） ヒグマ対策関係では、令和6年第2回定例議会で、同僚議員が一般質問し、また、令和7年2月26日、先月ですが開催の産業常任委員会でも取り上げられています。行政より取組状況などについて報告されていますが、一般質問することでこの議会のYouTubeを観ている方や、のちに発刊される議会だよりに多くの町民に周知されると考え、一般質問することといたしました。行政側には同じような回答になる質問があるかと思いますが、回答についてよろしく願いいたします。

それでは早速再質問に入らせていただきます。1点目のヒグマ出没時の対応を協議とありますが、どのような内容でしょうか。

○議長（柏倉恵里子） 小川産業振興課長。

○産業振興課長（小川洋） 出没時の対応ということで、目撃情報が入った時点で、速やかに町と警察、猟友会による情報共有をしております。あと、目撃付近の巡回、また、注意喚起として近隣住民宅の訪問、注意喚起用看板の設置、あと必要性に応じまして、猟友会と箱罾の設置の協議を行っております。以上です。

○議長（柏倉恵里子） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） わかりました。今箱檻というお話が出ましたので、箱檻の個数は何台あるのか。また、設置箇所があると思うんですが、何箇所くらいに設置しているものなのでしょうか。

○議長（柏倉恵里子） 小川産業振興課長。

○産業振興課長（小川洋） 箱檻は7台、7基というんですか、猟友会のほうで所持しております

す。あと昨年ですけれども、箱罾の設置は4基設置しております。富野に1基と知来に3基となっております。以上です。

○議長（柏倉恵里子） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） それでは3個余っているんですが、それはそのときによって出沒された地域に設置、速やかにやっているという理解でよろしいでしょうか。

○議長（柏倉恵里子） 小川産業振興課長。

○産業振興課長（小川洋） そのとおりです。

○議長（柏倉恵里子） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） それでは3点目に入らせていただきます。出沒地域が地区名で示されているんですが、内部資料として長万部全町地区に出沒地点を赤点で示すとか、設置場所を示す、そういう誰が見てもわかる、担当者がいないときでも速やかに対応できるような、そういう方法は取ってはいないのでしょうか。

○議長（柏倉恵里子） 小川産業振興課長。

○産業振興課長（小川洋） クマ出沒時や箱檻の設置など、突発的な対応につきましては、少ない人数ですので、係だけでなく産業振興課全体で対応をしているところであります。あと、議員のおっしゃるように担当者不在でも対応ができるように、誰でもわかるように書類等の整備をしておきたいと考えております。以上です。

○議長（柏倉恵里子） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） 4点目に入らせていただきます。先ほどヘリポートの近くでクマが確認されたということで、今後、字長万部、この町内エリアというんですか、字長万部地区にヒグマの出沒が、可能性が高くなっているんですが、庁舎内の中で総務課、今、主担は産業課だとお聞きしてましても、総務課を主体とした組織が必要になるのではないかと考えるんですが、その理由としては、やはり住居地域になりますので周知の方法を素早くしなければならぬということになれば、現場対応とその住民周知、という方法については、総務課を主体とした人たちが周知方法を回って歩くとか、防災ラジオでもやると思うんですが、そういう周知、地域住民、地域に早く知らせる方法が必要と考えますが、どうでしょうか。

○議長（柏倉恵里子） 小川産業振興課長。

○産業振興課長（小川洋） 昨年も苗畑地区にヒグマとか出沒したときには、防災ラジオを通じて広報のほうしております。また、産業振興課だけでは市街地に出たときには対応というのはきっと難しいと思いますので、総務課や建設課、消防なども協力しながら体制を作っていきたいと思っております。以上です。

○議長（柏倉恵里子） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） そのように対応していただければと思います。それで5点目、最後のご質問なんですが、再質問なんですが、現在猟友会の会員が10名ということで、免許を所有しているのは、ライフル免許を所有しているのは、そのうち何名の方が所有しているのでしょうか。

○議長（柏倉恵里子） 小川産業振興課長。

○産業振興課長（小川洋） 猟友会10名おりますけれども、ライフルの所持しているのは4名の方が所持しております。以上です。

○議長（柏倉恵里子） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） そうすると、6名の方が散弾ということになりますよね。それで散弾銃

からライフル銃の免許を申請できるのは、ある程度年数がかかるとお聞きしているんですが、どの程度かかるのでしょうか。

○議長（柏倉恵里子） 小川産業振興課長。

○産業振興課長（小川洋） 散弾銃を継続して10年以上所有している方が、ライフルに移行できるようになっております。以上です。

○議長（柏倉恵里子） 辻議員。

○議員（3番 辻紀樹） 最後の質問には町長にお答えいただきたいと思うんですが、緊急時であればこそ、地元猟友会の理解と協力が必要だと。全くそのとおりだとは思いますが。ただ、字長万部ということになると、ライフル・散弾は使えないですよ、法律上。そうするとどうしても箱檻というものが必要になってきます。その箱檻を設置する際の要領とか、クマの習性とかを熟知した人でないと、なかなか箱檻での捕獲は難しいというお話があります。僕箱檻で過去5年間捕れて、捕獲件数がないと。これ結構なことだと思うんですね。その対応をするのが一番僕は、今後長万部町にとっては、変な話水際ではないんですが、その箱檻を設置した下流部、要するに海側にはクマを移動させないという方法が一番僕はいいと思っています。でもこれからやはり頭数が多くなってきますから、町場に降りるということは考えられると思います。そのときの対応を、今日の朝もテレビで訓練をやってみました。それは箱檻なんですね。ライフルではないんです。これからやっぱり箱檻でどうやって町場に降りてきたものを捕獲するかというのは長万部だけではなかなか対応できないものがあると思います。

そこで今後、やっぱりそういうことも考えながら、他町村、確かに法律がありますからそう簡単にはいかないとは思いますが、そういう事態になったときにやっぱり対応を考えながら保っていくのは、補償費もかかるわけですから、そういうものを考えながら検討する時期に来ているのではないかなと思うんですが。最後の質問です。町長の考えを聞いて終わりたいと思いますので、ひとつ町長の考えをお聞かせください。

○議長（柏倉恵里子） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 箱罾が緩衝帯のひとつの武器になるのであれば、それはひとつの大きなこれからの活用の方法だと思うし、今言われたとおり、クマも足早いものだから、あそこに出たって行ってみたらいないっていうのが往々に考えられるんだよね。だからやっぱり箱罾が許可があって使っていいよって、渡島振興局の許可が出るのであれば残りの対応もできるし、どこへかけたらいのかって質問の中であつたけど、かけるにしてもベテランの人方の知恵がいるっていうことも先ほどの質問にあつたとおりでね、これらをよく今後、猟友会の人方の知恵を借りながら、箱罾どこに設置しておけば緩衝になるのかと言いかも含めて、検討していく必要があるかなとは思ってます。今後のひとつの対応です。よろしくお願いします。

○議長（柏倉恵里子） 以上で辻紀樹議員の質問を終わります。

高森議員。

〔議員（6番 高森功治）登壇〕

○議員（6番 高森功治） 私の質問は2点であります。1点目、奨学金返還支援制度について。

国は、大学生や若い世代の地方定住促進のため、自治体が奨学金の返還を支援する取り組みを推進しています。

日本学生支援機構の調査によると、大学生の約3割が返還が必要な貸与型奨学金を利用しているとのことで、就職後、奨学金の返還に苦しむ若者が少なくありません。

この返還支援制度で若者の経済的な負担を軽減し、地元企業への就職、介護士や保育士などの特

定職種の人材確保、新たな移住者の増加などの効果も期待できることから、本町での事業実施について町長の所見をお伺いいたします。

2点目、駅前商業施設誘致について。2022年6月号の町広報や昨年12月の町民説明会で、駅東口の駅前広場や自由通路、昇降棟とともに立体駐車場と商業の複合施設の構造図が示され、令和7年度中に基本構想を検討したいとの説明がありました。

駅前は町の中心地としてのにぎわい作りが不可欠ですが、現在営業中のスーパーは老朽化しており、災害などで撤退すると大変住みにくい町になってしまうことが心配です。

行政として、複合施設の構想についてできる限りの検討をするべきと考えますが、町長の所見をお伺いいたします。以上です。

〔議員（6番 高森功治）自席へ〕

○議長（柏倉恵里子） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） それでは、奨学金返還支援制度について答弁させていただきます。

奨学金の返還支援は、若者の負担軽減や地方定住の促進に有効と考えます。町でも、介護士や保育士など必要な職種に加え、技術系資格者の人材確保も検討することで、人材確保と定住促進を図れる可能性があります。

ただし、必要な職種の人材の絞り込みや、新幹線工事などの鉄道事業の技術者への適用の可否など、移住定住の効果と公平性の観点が必要と考えます。若者の定住は町の未来に重要であることから、先進自治体の事業を参考に、町での人材確保の必要性和移住定住の効果などを踏まえて、長万部町奨学金運営委員会の意見を伺いながら、検討してまいりたいと考えております。

2点目の、駅前商業施設誘致についてお答えをいたします。駅前整備の未来像として、商業機能の集約とにぎわいづくりが重要であります。議員のご懸念どおり、スーパーの老朽化や撤退リスクは課題であり、土地区画整理事業で大規模な区画造成が見込める今が、商業施設の誘致の好機であると考えております。

土地区画整理事業では、大規模区画の確保ができることが前提であります。令和7年度中に複合施設の基本構想について、民間企業誘致に向けた検討をこの機会を逃すことなく進めたいと考えているところです。すでに民間事業者から大きな関心が寄せられており、前向きに対応したいと考えております。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（6番 高森功治） それでは何点か再質問させていただきます。1点目の奨学金返還支援制度なんですけども、この制度の建て付けと、道内での市町村がどれくらい実施しているのかお聞きいたします。

○議長（柏倉恵里子） 岸上新幹線推進課長。

○新幹線推進課長（岸上尚生） ただいまの事業の建て付けと道内自治体の参考事例ということかと思しますので、お答えさせていただきます。

まず、道内ではありますが、北海道庁のホームページを調べましたところ、道内52の自治体で奨学金支援制度の取り組みが実施されております。自治体が行う奨学金支援には、建て付けという意味かと思いますが、大きく分けて2つのパターンがございます。まず1つ目は返還免除型でございます。これは自治体独自の奨学金について要件を満たした場合、貸与された奨学金の全部または一部が免除されるもの。2つ目については返還支援型でありまして、要件を満たした

場合は様々な奨学金を幅広く返還を行う際に、補助金などで返還にかかる費用を支援するものでございます。

参考として、渡島管内では5つの自治体で、3年から5年の期間、月1万円から6万円程度の援助が実施されておりました。参考に、返還支援型では、幅広く支援するタイプでは函館市、北斗市、七飯町。また、返還免除型では松前町、木古内町で行われていることが公表されております。説明は以上でございます。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（6番 高森功治） 返還支援型でお聞きしたいんですけども、この制度を実施した場合、国からの補助金といいますか、交付税措置はございますか。

○議長（柏倉恵里子） 岸上新幹線推進課長。

○新幹線推進課長（岸上尚生） ただいま、国からの交付税措置と補助等というお話でしたが、ちょっと調べましたところ、奨学金、国の内閣府の資料では、奨学金の返還支援に地方公共団体が要した費用は、特別交付税での対象措置となるという説明がございます。支援の内容や金額は条件によって様々だと思いますが、一応特別交付税措置の支援対象になるということは確認してございます。以上でございます。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（6番 高森功治） いろいろな条件によって変わるということだったんですけど、大体やっぱり2分の1くらいは町に入ってくるという考え方でよろしいですか。

○議長（柏倉恵里子） 岸上新幹線推進課長。

○新幹線推進課長（岸上尚生） ただいまの2分の1でよろしいかというご質問なんですけど、資料によりますと、なかなか詳しくそこまで判断することはできないんですけど、例示としては返還の3分の1、2分の1。または3分の2等の起算のあたりもします。なので2分の1かどうかというのはなかなかこの段階では判断しづらいところでございます。以上でございます。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（6番 高森功治） 実は自分がこの制度を知ったきっかけが、実際に長万部の事業者さんからお話を聞きまして、長万部出身の子が学校を卒業して長万部に帰ってくると。それで就職をしたいから、その事業者さんの所に行きたいなという話をされてたんですけども、実際あとになってその子は近隣の町村に就職してしましまして、その事業者さんがなんで長万部に就職しないでそこに行ったの？って聞いたら、その町村ではこの制度があると。奨学金を返してくれると。毎月大体1万円ですね。1万円を5年って言ってましたね。5年間くらい。だから総額で60万円くらい町が負担してくれてる。ということで実際にもう行ってしまった事例がもう出てるんですけども、全国的に労働者不足、労働力不足が問題となっている中で、長万部も例外ではないと思うんですよ。新幹線工事の関係もあって、もしかしたら全国の平均よりも人手不足というのが深刻になっているかもしれない、なっている中で、最近では役場の若い職員さんも退職というのもちらほら聞いておりますけれども、こういう制度を活用して、費用対効果から見てもそんなにお金がかかる事業ではないんじゃないかと思ってるんですけども。どうですかね、役場の職員とかそういうのにも拡げて、この制度を創設するというお考えはないですかね。

○議長（柏倉恵里子） 木幡町長。

○町長（木幡正志） お話はよくわかります。だから答弁で答えているように今後検討していきたい、明確に答えています。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（6番 高森功治） 令和7年度からというのは難しいと思うので、どうか調査・研究をして令和8年度でも9年度でもいいので、実施のほうお願いしたいと思います。

それでは2問目行きたいと思います。まず2問目の冒頭にお聞きしたいんですけども、札幌の延伸というのが2038年度になるという報道がなされました。率直にこの報道をどう受け止めたか町長にお聞きしたいと思います。

○議長（柏倉恵里子） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 報道では随分2038年ということが一人歩きしている状況なんだけど、有識者会議が13日の午後6時から開催される。14日に内容を公表しますという話は聞いてるんだけど、その話を正確に聞いて、その上で対応していくというのが大事なことかなと思ってます。できれば予定どおり2035年に期待してあったんだけど、それ3年延びた38年が決定的にこの検討した委員会、有識者会議から出てくるだろうなというのを想定しながら。ただしマスコミの情報が先行して走ってるものだから、今の段階ではコメントを差し控えたいという形で止めてあります。そういうことです。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（6番 高森功治） それでは複合施設の質問にしたいと思うんですけども、複合施設に防災機能を持たせるという計画になってると思うんですけども、町の中に賑わいを持たせつつ、防災機能を持たせるという計画は、実際にはできるのかどうかお聞きします。

○議長（柏倉恵里子） 木幡町長。

○町長（木幡正志） まず、長万部の津波対策上、やっぱり新しい施設を考えたときには常に防災意識を持って津波対策を考えなきゃいけない。そのためには新しい施設を作ったらそれがどうやって避難場所になるのかということを含めて、そしてまた新しくできる自由通路、これやっぱり最大の避難場所の経路になるだろうと。

そういう付属してくる商業施設もそういう形の中で町の人が逃げ込んでも大丈夫な、人命を守れるような施設にしなければいけないということを当然考えるのは当たり前のものであって、せっかく作るものであればそういったものを備えながら、価値のある商業施設にしていくということは考えております。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（6番 高森功治） 今自由通路の話も出たんですけども、中央跨線橋がなくなってから2年くらい経ったかと思うんですけども。私もこの橋のすぐ近くに住んでおりますので、これがなくなって不便さというのをすごく感じておるんですけども、新幹線来るのが遅れてでも、この自由通路というのは早期に作らなきゃいけないと思うんですけども、その辺の具体策というか、機構への働きかけというか、そういうものはなされておるんですか。

○議長（柏倉恵里子） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 機構のほうには最初から、とにかく2028年、これには自由通路が通行できるような形の建設をお願いしたいということをお話ししておりまして、その流れの中ではひとつ今確認をしながらやってたんだけど、2028年には駅舎の完成が遅れても自由通路は仮設で工事していきたい。こういう話も今の段階でいただいております。

なぜ仮設でお願いするかといたら、建物、駅舎の建設のときに下の通路を建設資材を積んだトラック、トレーラーが走るんで、その高さまで必要になってくるということで、仮設でとりあえず自由通路を建設して、そして本工事の新しいほうの駅舎の中の通行にあたると。いう形で今の段階

では話を聞いて、できるだけ町の希望に沿った形の28年度までに完成、作れるように努力したい。そういう話をいただいております。

○議長（柏倉恵里子） 高森議員。

○議員（6番 高森功治） 答弁書の最後にも、民間業者から大きな関心が寄せられており、前向きに対応したいと書いておるんですけども、交渉事なのでまだ喋れないことがいろいろあるかと思うんですけども、何か民間事業者からの情報というか、何か答えられることがあればちょっとお聞きしたいんですけども。答えられなかったらそれでいいです。

○議長（柏倉恵里子） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 大変ご理解のある質問だなと思っているんですが。もうすでに何回か民間企業のトップとお会いして、この話を進めさせて、相手方もやはり将来長万部の商業施設の中で商売していきたいという話もいただいておりますので、確実に来るものという認識は持っております。

ただ、駅舎の完成がどうなるのか、これがひとつの大きな課題なんですね。だけど長万部の駅って今在来使った駅舎が解体されて、仮の駅舎になってきて、本駅舎ができて初めて駅が使える。これは長万部の駅って新幹線が来なくても在来線が来るんですよ。在来線が乗り入れる。

ただ在来線が乗り入れるのも、これJRどう考えてるか知らんけども、南回りで作って在来線乗り入れるのか、それとも並行在来線、函館まで特急通して、在来線の活用するのかってこと全く決まってないんですよ。だからローカル線も含めて、長万部の駅舎というのが新幹線が走らなくても在来線で使うということが大きな課題になってくるので、そのあたりは機構のほうとも、またJR北海道とも詰めもやり、そしてJR貨物のほうとも的確な情報共有していかなければならないなと思っています。

八雲はもう列車が通らないので、そういった知恵は不可能だと思うんだけど、新幹線が活用しなくても在来線が使える、使うんだということをJR北海道とともに協議して、いち早く駅舎が使用可能になる期待をしながら機構のほうとも話もさせていただいて、いつ駅舎が完成するのか、いつ滞留空間が使えるのか、いつ自由通路が使えるのか、このあたりを明確に出してくれという話を今しているところなんで、それは近々に年度を明示していきたいという話になっておりますので、そこにやっぱり期待をしながら商業施設のほうにも誘致の話を進めていく。これが決まらないうちは相手方に対して話ができません。だからそれはちょっと今これから交渉段階でもあり、その方向に持っていくために、今努力しているということで、ご理解いただければありがたいなと思います。

○議長（柏倉恵里子） 以上で高森議員の質問を終わります。

以上をもって一般質問は通告どおり全部終了いたしました。これにて一般質問を終わります。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

◎休会の決定

○議長（柏倉恵里子） お諮りいたします。予算審査特別委員会に付託された議案審査のため、12日と13日の2日間を休会としたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

ご異議なしと認めます。よって12日と13日の2日間を休会とすることに決定いたしました。

なお、本会議は3月14日午後1時30分から再開いたしますのでご承知おき願います。

◎散会宣告

○議長（柏倉恵里子） 本日はこれにて散会いたします。ご苦労様でした。

10時38分 散会
